

ウェブと語彙集: 朝鮮語濟州方言語彙研究の課題と展望*

Web and lexicon: Problems and prospects in the lexical study of the Jeju dialect of Korean

千田俊太郎
TIDA Syuntarô

1 はじめに

朝鮮語濟州方言(以下「濟州方言」あるいは「方言」)は本論で紹介する通り、すでに複数の辞書・語彙集が出版されてをり、最近ではウェブ上に多言語対訳の辞書が発表されてゐる。語彙研究の積み重ねも、辞書編纂に関はつた研究者かつ母語話者によるものが多くあり、この分野に外国人研究者が分け入るすきは一見あまりなさうである*¹。そのやうな中、意味分類を活用した新しい多言語対訳シソーラス(「デジタル博物館濟州方言対訳語彙集」)を編んでウェブ上に発表することにした(<http://kikigengo.jp/jeju/doku.php?id=exhibition:start>)。これまでの濟州方言の辞書・語彙集の性格を振り返つて、新たな試みの意義を確認してみたい。以下、第2節では『濟州語辞典』と『濟州方言辞典』を中心にこれまでの辞典・語彙集の残した課題について見る。そのあと第3節で筆者が作成中のオンライン辞典の試みについて紹介し、その特徴を述べる。

2 これまでの辞典・語彙集

2.1 『濟州語辞典』

濟州文化藝術財團編(2009)(以下『濟州語辞典』)は1995年に出版された辞典の改訂増補版で現在最も信頼できる濟州方言辞典である。前付の凡例冒頭に、1995年版は18,456項目、2009年版は25,350項目を収録したとある。語義はもとより品詞と調査地点の情報が必ず示されてをり、變異形がある場合にはほぼ必ず末尾にリストされてゐる。「植物」、「衣類」、「疾病」といつた意味分野の表示がされてあつたり、例文や寫眞がそれなりに盛り込ま

* 本論文の一部は科学研究費補助金(代表者: 千田俊太郎、研究課題番号: 25284078)の研究成果である。

*¹ 語彙、辞書編纂の先行研究についてはオ・チャンミョン(2014)が詳しい。

れてゐる点もよい。見出し語に地名や接辭が多く載つてゐるのも一つの特徴である。派生語、複合語は小見出しになつてをらず、kakpeyl^{*2}「格別」、kakpeyli「格別に」、kekpeylhota「格別だ」は全て本見出しとして並んでゐる。音素 o を表はす字母は母音字母のうち最後に配列されてゐる。

語義説明には標準語^{*3}の譯語を擧げるだけでなく漢字表記を添へたり説明の工夫がある。例へば見出し語 kamey は肩數字 1, 2, 3 のついた三つの項目があり、譯語は全て kama、それぞれ「旋毛」、「釜」、「轎」と漢字が括弧書きで添へられてゐる。また、sem は 1, 2 と肩數字のついた二つの項目があり、どちらも譯語は方言と同一表記の標準語 sem であるが、1 には「sem(島)」と漢字が添へられ、2 には「sem, 穀物などの分量を計算する單位の一つ」とある。このやうに、同義語を持つ固有語に對して語義の區別を明示するために漢字表記が添へられることが多い。

ただ、發音表記がないので例へば「目脂」を表はす nwunkwop / nwunkkwop / nwunkhwop のうち nwunkwop / nwunkkwop が表記上の違ひにすぎないのか、發音上の違ひを示してゐるのか曖昧である。『濟州語辭典』で最も残念な點は非賣品で流通が限られてゐることである。その他、編輯上のミスや不十分な點がいくつかある。以下では基本語彙、變異形、參照に關する問題を指摘する。

2.1.1 基本語彙の漏れ

見出し語選定の段階で漏れてゐたと考へられる基本語彙がいくつもある。これは、基本的でかつ標準語と同一表記をもつものにとりわけ多い。例へば漢數詞全般のほか pwota「見る」、hay/hey「年」、il「こと」、kes/ke「物」などが見出しに擧がつてゐない^{*4}。東西南北のうち見出しにあるのは nam「南」のみ、曆の月の名前のうち見出しにあるのは iwel「二月」と sowel「四月」、sipilwel「十一月」のみである。sowel が見出し語に擧がつてゐるのは標準語形 sawel「四月」と異なることと關連するのではないか。iwel は語釋をのせず矢印で主見出しを參照する空見出しであり、參照先の yengtungtol には「陰曆二月」とあるが、iwel は陰曆に限つて用ゐられる語彙ではない。

そのほか、基本語彙とは言へないが文化的に重要な hwongcistay「綾巻き」が立項されてゐるのに tatumi「砧打ち」や tatumistwol「砧」がないのは漏れと言つていいのではないか。

^{*2} 本稿では濟州方言表記に Yale 式ローマ字を用ゐる。ただし母音體系が標準語とは異なり、中期朝鮮語用の規則と同様 o と wo の區別を行なふ必要がある。本稿ではこの區別を方言にも標準語にも一貫して適用する。なほ、Yale 式の本來の規則通り、唇音のあとで wu/u の區別を行なはない。

^{*3} 本稿では「標準語」で朝鮮語の韓國の標準語を指すことにする。

^{*4} ここに擧げたやうな見出し項目にない單語は、『濟州語辭典』を丹念に探すと、例文中に見付かることが多い。『濟州語辭典』では、曆の月の名前は異稱を含めれば 1 月から 12 月まで全て見出し語か例文に現れる。

2.1.2 變異形

■主項目選定・標準化 變異形や同義語は主項目を設定し、主項目以外の見出しは空見出しにしてゐる。独自の標準化を行なつてゐるわけである。空見出しの設定は、辭書が紙媒體であるために生じる分量制約にも關係があるだらう。空見出しにも品詞、意味分野、調査地點の情報はあり、例文がついてゐることもある。一方で主項目にも語義のほか變異形などの情報もほぼ必ずある。しかし、時に一貫性のない標準化が見られる。例へば cwomun 「弔問」は空見出しで主項目 kwolyem に送られてゐるが、hota 「する」のついた項目は逆に kwolyemhota 「弔問する」が空見出しで cwomunhota が主項目である。同様に「獵」は sanyang(主) / sanwong(空) だが「獵師」は sanyangkkwun(空) / sanwongkkwun(主)、「蟹」は kingi(主) / keyngi(空) だが「二星石蟹」は simpangkingi(空) / simpangkeyngi(主)^{*5} となつてゐる。眞逆ではないが似たものに「節日」は myeyngcil(主) / myengcel(空) だが「節日に祭祀を行なふ」は myeyngcilhota(空) / myengcilhota(主)、「いくつかの」yola(主) / yela(空) だが「みなさん」yelepun(主) / yelapun(空)、「六つ」yeses(主) / yosos(空) / yosus(空) だが「六番目」yeseschey(空) / yesescay(空) / yososchay(主) / yososcey(空) のやうなものがある。

標準化の漏れもある。「傾ける」が cwuwulita(主) / kiwulita(空) であるに對して「傾く」は kiwulta(主) を独自の主項目としてをり、「雄豚」を意味する swuthwosayki は swuthwos、swuthwayyaci と相互に参照されてをらず、別項目の扱ひになつてゐる。

■参照漏れ このやうな變異形の参照漏れがいくつか見られる。「混ぜる」sekkuta1(主) / sethuta(空) / hekkuta(空) については主項目に變異形 hekkuta への参照が缺けてゐる。「綾巻き」hongsili は獨自項目に立つてゐるが、hongcistay(主) / pakistay(空) / pangkistay(空) / payngkistay(空) / hongciltay(空) と相互に参照すべきである。その他、cwulang 「杖」と ciphangi などの同義語に相互参照がない。

2.1.3 語義について

tutta の譯語は tutta 「聞く」である。しかし、この語彙は標準語と異なり(日本語と同様に)「訊ねる」の意味も合はせもち、この記述は不充分である。同様に seng の譯語は hyeng 「同性年上兄弟・男性」であるが、「同性年上兄弟・女性」(標準語 enni^{*6})も指すことができる(語文研究室編 1995: 84)。

^{*5} 蟹の名前は全部で十數項目が載つてをり、主項目の設定はまちまちである。

^{*6} 標準語でも兄弟姉妹語彙の用法は若干複雑であり、正確には hyeng は形態素としては「同性年上同世代親族」の意味をもつ(例: che-hyeng 妻-兄は妻の姉)が、單獨の用法では指示対象は男性に限られる。また enni も幼児は同性年上の兄に對して用ゐることがある。

同じやうに pul(2) の譯語は pul 「火」である。標準語の pul は火事や燈火をも表はすが、譯語として pul が示されただけでは語義が標準語と同様の廣がりをもつものか、この記述では分からない。同様のものに pis の譯語 pich 「光、色」、mwok の譯語 mwok 「首、喉」、などがある。

2.2 『濟州言葉大辭典』

ソン・サンジヨ編 (2007) (以下『ソン・サンジヨ辭典』) は項目数について記載がないが、規模から見て見出し項目数で現在最大と思はれる濟州方言辭典である。空見出しを含めると 4 萬に達するのではないか。『濟州語辭典』の前身の 1995 年版を参照したあとも色濃くあるが、前書きに詳しいやうに独自の編輯方針を立てて取り組んでゐる。第 1 部に「語彙」、第 2 部に「1. 語尾と助詞、2. 接辭」を分けて提示する構成や、音素 o を表はす字母を母音字母のうち最初に順序づけるところは『濟州語辭典』と異なる。品詞名稱に固有語^{*7}が採用されてをり、漢字表記が非常に少ないことも一つの特徴である。調査地點の情報はあるが、意味分野の情報はない。寫眞の提示はなく、例文はないわけではないがほとんど目につかない。

『ソン・サンジヨ辭典』は『濟州語辭典』(1995 年版) と比べるとたしかに語彙自體も増えてゐるやうだが、見出しの増加は變異形の提示に顯著に見られる。空見出しがページの半分以上を占めることも多い。8 ページ目を例にとると、67 項目のうち主項目は 22 のみである^{*8}。特に母音表記 i/ui、oy/wey/way、ey/ay については前書きにもある通り、音韻的對立を認めるべきかといふ問題があり、すでに通用し始めた表記と標準語表記や語源をも考慮に入れて、表記上の變異を増やし、獨自方針の主項目設定をすることにより、問題を解決したやうである。つまり、『濟州語辭典』(1995 年版) などの既存の資料に見られる表記は見出しに含めたまま、機械的な置き換へによる別表記を増やしてゐるものと考へられる。

これだけ空見出しが多いといふことは、辭書の利用者は相當な確率で再検索を迫られるといふことになる。空見出しの立て方について『濟州語辭典』と同じやうな方針で収録項目数を増やした場合、必然的に起こる事態ではある。

『濟州語辭典』と似た記述だが漢字表記が廢されてゐる場合に、語釋にもう少し配慮すべきではなかつたか、疑問に思はれる部分もある。例へば soyu(1) と soyu(2) はどちらも標準語譯が sayu だが、どちらかが「事由」でどちらかが「私有」なのだらう。また、nwun

^{*7} 韓國では言語學の用語に漢語系のもので固有語系のもの両方がそろつてゐる場合がある。

^{*8} このページは kosulchangma 「秋の長雨」から kocey 「これまで」を含んでゐる。『濟州語辭典』の始まりと終はりが同じ部分は 124 ページから 125 ページにわたり、47 項目のうち 24 が主項目なので、空見出しの多い部分ではあるが、半分以上が主項目であり、その絶対数は『ソン・サンジヨ辭典』より多い。

には同音異義語が5つ示されてゐる。まづ肩数字1つまり nwun(1) は標準語譯の對應語に「nwun‘眼」と漢字が付されてゐる。nwun(2) から (4) は問題ないが、nwun(5) は標準語譯として「nwun」とのみある。標準語にも見られる「目、雪」の同音異義が存在するのだからと想像して nwun(1)=標準語 nwun が「目」なら nwun(5)=標準語 nwun が「雪」を示すものかと推測するしかない。同様に sahwey(1) は空見出しで sohwey を参照するやうになつてをり、sahwey(2) は「sahoy‘社會」とある。sohwey を見ると「sahoy」とある。これも「社會、司會」の同音異義があるならば sahwey(1)=sohwey が「司會」なのであらう^{*9}。

2.3 『方言資料』

語文研究室編(1995)(以下『方言資料』)は意味の大まかな分類により語彙がリストされてをり、巻末に索引がある分類語彙集である。編輯スタイルは調査ノートを意識したのか、調査で對應語彙が得られなかつた項目も他の項目と一緒に並べられてゐるなど、獨特である。語彙数は少ないが意味分類による検索や、他の資料にない發音表記などによつて今でも利用價值を失つてゐない。また、情報としても先に言及した seng の意味が「同性年上兄弟」の男性、女性にわたることを明示する記述は管見の限り『方言資料』にしか見えない。

2.4 『標準語で引く濟州語辭典』

ヒョン・ピョンヒョ・カン・ヨンボン(2014)(以下『標準語引き辭典』)は最も最近出版された辭典で、標準語を見出しにする點が特色である。方言形は13,800あまりの語彙「による」とのことで^{*10} 數字の意味が曖昧だが、概算したところ、見出し項目數(主に標準語)が「語彙」、それに對し多くの場合複數の方言形が示されるといふことのやうである。

ところで、この劃期的な試みに、一つだけ編輯方針に關する問題があると考へる。標準語の見出し語に混じつて時々アステリスクのついた方言語彙が見出し語に擧がつてゐる點である。見出しに擧がつてゐる方言形は、標準語で對應語彙を一つに決め難いやうな語彙^{*11}、つまり標準語引き辭典においては譯語として辭典に含めにくい語彙である。この措置は、おそらくある種の網羅性をねらつたものと思はれるが、方針が一貫してゐるとはい

^{*9} 『濟州語辭典』と比べてその意圖が分かる場合がある。『濟州語辭典』では soyu(1) が「sayu(事由)」、soyu(2) が「sayu(私有)」である。また『濟州語辭典』でも sahwey(1) が空見出しで sohwey に送られてをり、主項目の標準語譯に「sahwey‘司會」と漢字が付されてゐる。『ソン・サンジョ辭典』はこれらの記述に基いて漢字を除いたものだらう。

^{*10} ヒョン・ピョンヒョ・カン・ヨンボン(2014: 7)に「*(꽃표)가 붙은 제주어 표지에를 포함하여 13,800 여 어휘에 따른 방언형을 제시하였다」(* (花印) が付いた濟州語表題語を含め 13,800 餘の語彙による方言形を提示した)とある。

^{*11} 凡例 4-2によると「제주어의 특징이 드러나는 어휘」(濟州語の特徴が現れてゐる語彙)となる。

へないし、使ひ方が分からない。

2.5 『濟州語基礎語彙選定及び活用方案』

オ・スンファン・ムン・スンドク (2013) (以下『濟州語基礎語彙』) は特殊な語彙集である。『濟州語辭典』、『ソン・サンジョ辞典』、『方言資料』、カン・ヨンボン他 (2010) など既存の資料に現れた語形のみを対象に行なつた、二次的整理作業の成果である。基礎的と思はれる項目を複数名で主観的に選び、語義により番號を付け、變異形や同義語を一項目として扱つたものでたいへん丁寧な作業を行なつたことが分かる。このリストを見ると、それぞれの辭書・語彙集に缺けてゐる項目 (それも基礎語彙) や、相互参照が缺けてゐるものなども一覽することができ、リストそのものが先行研究の批判になつてゐるところが面白い。現在の濟州方言語彙資料はまだ二次的資料整理の餘地を大きく残してゐるといふことになる。

ただ、『濟州語基礎語彙』には語釋がついてゐないため、それぞれの語形が意味するところは他の資料を改めて確かめないと分からない。目的が基礎語彙選定とその活用であるとはいへ、このままの形では「活用」できる人は非常に限られる。また、一部語彙は重複してゐたり同じ意味を表すものに別の番號がついてゐたりする^{*12}。

2.6 ウェブ上の『濟州方言辭典』

濟州特別自治道サイトの「濟州方言 - 方言辭典」<https://www.jeju.go.kr/culture/dialect/dictionary.htm> は標準語のほか英語、日本語、中國語の譯語が示された、見出し語 7,000 を超えるウェブ上の辭典であり、試みとしては意欲的な辭典とも言へる^{*13}。しかし、いくつかの重大な缺陷がある。學術的な成果物といふべきではないかもしれないが、『濟州語辭典』と發表主體を同じくするものでもあり、また本稿で紹介する企劃とは、多言語對譯を含み意味分類記號が付いてゐるウェブ辭典といふ點で似てゐるため、問題點を確認しておく。

第一に、音素 *o* を表す文字に、韓國の特定のソフトウェア・フォントでしか支援されてゐない外字コード (所謂漢陽 PUA) が使はれてをり、適切なフォントがなければ表示されない部分が出てくることである。

^{*12} 例へば、番號 0312 と 0321 に出典は異なるが *nwutulta* が重複、番號 0410 と 0987 に出典は異なるが *twongsan* が重複、番號 0597 の *mulwey* と 1046 の *wey/woi* はともに「胡瓜」を表す。

^{*13} 語彙集・辭書ではないが、外國語の對譯で興味ぶかい試みに標準語、英語の對譯を添へた濟州方言會話集のオ・スンファン・ムン・スンドク (2012) がある。濟州文化を話題にしてゐるところも含め、危機言語の再活性化に資するところが大きい。

第二に、文字が見え、適切なソフトウェアによつて文字の入力が可能な環境であつても検索が非常に不便である。まづ、初めの画面は全語彙のリストで、7,000 を超える見出し語がいくつものページに分かれてランダムに並んでゐる。語頭の字母のリストがボタンになつてゐるが、語頭の字母一つで結果がしぼられるだけで、相變はらずランダムな配列の膨大な語彙リストが現れる。これでは索引の役割を果たさない。34 の意味分野から語彙をしぼることもできるが、分類が語彙数に對して大まかすぎて、検索時に對象語彙をしぼるのにほとんど役に立たず、結果リストの並び順はやはりランダムである。文字列で検索することもできるが、これも同じことで、單語のどこかにその文字列を含むものがソートされずに出てくるだけなので、一文字からなる單語の検索では、大きな結果リストを目で追つていかなければいけない。さらに、検索できる文字は音素 *o* を含まないものに限られる。これは上記の外字コードが検索システムにサポートされてゐないからであらう。

第三に、英、日、中の譯語がせつかくついてゐるのにインターフェイスは多言語化されてゐないといふ問題がある。語彙を絞り込み、検索をかける段階では朝鮮語を讀み書きしないといけない。ヒットした濟州方言と標準語のペア・リストから選擇し、項目の詳しいページに入つて初めて英、日、中の譯語を見ることができる。これでは何語話者のための多言語化が分からない。

空見出しに關する問題も深刻である。標準語の *ttusphuli* 「語釋」に矢印で送り先の示された空見出し風の項目がある。詳しい項目ページに進むと、標準語以外(英、日、中)は譯語が示される。標準語の送り先表示はリンクになつてをらず、標準語話者が語義の確認をするためには再検索する必要がある。ウェブページといふハイパーテキストの利點の一つであるリンクが活用されてゐないわけである。紙媒體に比べて量の制約が少ないのだから再検索の手間を完全に省けるやう、意味の記載をしてしまふこともできたはずである。

最後に、方言の無理解による譯語の誤りが、特に標準語以外について多すぎる。分かりやすい例をいくつかあげる。*kalim* 「絲の塊から何本かを一筋・一玉に分けたもの」の標準語譯語 *sali* は同音異義語が多く同定に不充分であり、それを譯したと思はれる英語「*self-interest*」、日本語「私益」、中國語「事理」は全て誤りである。*twokkey.atol*(殼竿 息子)「殼竿の打ち木」の譯語 *twolikkey.atul* は、標準語形 *twolikkeysyel* とすれば誤解を招かずにすんだ。英語「*flail son*」、日本語「殼竿の息子」は意味不明の直譯であり、中國語「木排」も誤りである。*wopse* 「おいでなさい」(叮嚀な命令形)の標準語譯語 *wota* 「來る」は *wosipsiwo* とすべきであり、英語「*Come*」、日本語「來る」、中國語「來」は同様に不充分である。*kamakwiyencwul* 「かたばみ」と *kamakwiweycwul* は同じものなので相互に参照して同じ譯語をつけるべきであるが、前者の標準語譯は *kwayngipap*、後者は *koysunga* と異

なる譯語(同義語)をあててゐる。翻譯者たちが全て koysunga を kaysungma と見誤つたのか、事情は分からないが、後者について英語「Cimicifuga acerina」(kaysungma の學名)、日本語「オオバショウマ」、中國語「小升麻」と誤つた譯語が付いてゐる。その他、突拍子もない譯語の付いたものが非常に多い。

英語・中國語が誤つてゐるものに kwotishuk 「葺き土」を英「shrimp」、中「蝦」などがある。英語のみ誤つてゐるものに kamcwi 「甘酒」の譯「persimmon liquor」、chi(1)「舵」の譯「winnow」、keswuey 「蛔蟲」の譯「goose」、kaysnomul 「芥子菜」の譯「Korean hat」などがある。日本語のみ誤つてゐるものに talkwi 「胴突き、蛸突き」の譯「高麗時代の初期に活躍したツングースの一族」、kelumchey 「篩の一種」の譯「美しい體」、ellangswi 「口車、おもねり」の譯「朝」などがある。中國語のみ誤つてゐるものに kkwum 「唾」の中國語譯「針」などがある。誤りの原因をいちいち追及することはしないが、多くが(主に標準語の語釋における)同音異義語の取り違へや複合語の直譯によるものと思はれる。誤りや曖昧な表現は英語に多く、ついで日本語に多い。中國語の譯語は英・日に比べるとましである。

このやうな、内容的な間違ひは、一つには方言の知識が不足してゐるためでもあらうが^{*14}、元資料にある標準語の語釋が語義の同定に不充分であつたためでもあり、また記述言語により語釋が異なるのは編輯の統括に問題があつたといふしかない。

この辭典の作成主體は完全には明らかではない。『方言辭典』の「擔當部署」は文化體育對外協力局文化政策課で、「擔當者」はヤン・フェヨン(양희연)氏と名前は擧がつてゐるが、言語による對應語選定の違ひをみるに、複数の人々が關はつてゐることは間違ひない。また、この辭典のよつた元資料も、どのやうなものなのか明らかではない。既存の辭典類に見當らない独自の項目もあるが、評價は難しい。

2.7 まとめ

文字でソートされた通常の辭書のほか、分類語彙集や標準語引きの辭書までそろつてをり、基礎語彙指定の作業やウェブでの多言語對譯語彙集まで存在する危機言語は珍しいのではないだらうか。しかし、辭書に基礎語彙の記載もれが多く、また既存の多言語對譯の試みは學術的な水準に達してゐないなど、それぞれに課題が残されてゐる。特に、網羅的な分類語彙集は存在せず、電子媒體の利點が生かされた辭典はない。山口(2016)はその付論「理想的辭書システムとIT」において1. 語釋辭典、2. シソーラス、3. 活用辭典、文例・引用辭典の三つを相互にリンク付けするIT時代の三角構想が既存のシソーラスの問題を解決する可能性があるとしてをり、意味分類は古くも新しい辭書の形のキーになる。

^{*14} 方言形を全く見ずに標準語のみを参照して翻譯した可能性もある。

3 新しい濟州方言語彙集

新しい濟州方言語彙集「デジタル博物館濟州方言對譯語彙集」作成の目標は、先行研究に記載された方言形を主な資料として、多言語對譯シソーラスを作成することである。作業は峰岸真琴の『言語調査票 2000 年版』*15 を埋める形で始めた。約 2,000 項目のうち後半は對應語彙が見付からないものが多かつたが、特に必要な語彙とも思はれなかつたので、次に『濟州語基礎語彙』を全て網羅するやうにした。以上の作業によつて、既存の辭書に缺けてゐた基礎語彙を含めることができた。その他の見出し項目の選定にあつては上述の辭書・語彙集の見出し・例文の他、カン・ヨンボン (2001a, 2001b), カン・ヨンボン他 (2010), キム・スンジャ (2014) などの語彙研究を参考にした。2017 年 3 月現在、項目總數は變異形や同義語を含めれば 10,000 程度、變異形や同義語を除いた數は正確には分からないが 5,000 を超えるほどかと思積もる。なほ、濟州方言語形は一貫して Unicode の組み合わせ型で入力した。現在は對應フォントは少ないが、國際的な規格であり、將來的には最も長く使はれるのではないか。漢陽 PUA を扱へるフォントは普通これにも對應してゐる。

元データには譯語を複数の言語で入力してゐる。實用になる規模の譯語をあて終へた標準語、日本語(新假名新漢字・舊假名舊漢字)、英語、エスペラントの 4 言語のみを公開することにした。

語彙項目データには意味分野情報を付與した。意味分野情報は国立国語研究所(編)(2004)(以下『分類語彙表』)風の番號のほか、二つの別のシソーラス、山口(2016)と大野・濱西(1985)を参考に作つた分類階層の形式である。

一つのデータについて多様な觀點から検索できるようにまづは二種類の對譯語彙リストを用意した。一つは濟州方言の辭書順(音素 o は最後の母音字母として扱ふ)の對譯語彙リスト(圖 1、略稱「辭書」)で、語頭の子音字母によつてページを分けた。もう一つは『分類語彙表』風の分類語彙

노치단	波打 ^{なみうつ}
눅단 ¹	伏 ^ふ す, 寝 ^ね る, 横 ^{よこ} たわる
눅단 ²	弛 ^{ゆる} い, 緩 ^{ゆる} い
눅이단	緩 ^{ゆる} める
눅지단	寝 ^ね かせる
눈 ¹	目 ^め
눈 ²	水中眼鏡 ^{すいちゆうめがね}
눈 ³	雪 ^{ゆき}
눈곱	目脂 ^{めやに}
눈공저	→눈공즈 ^瞳 ひとみ

圖 1 辭書順語彙リスト

*15 『言語調査票 2000 年版』は『アジア・アフリカ言語調査票』と所謂「服部調査票」を統合して電子化したデータファイルである。詳細は下記 url を参照されたい。http://www.aa.tufts.ac.jp/~mmine/kiki_gen/query/aaquery-1.htm

ストである(圖 2)。日本語インターフェイスでは分類語彙リストの目次にあたるページを作成し、分類階層を大分類から小分類までたどっていけるやうにしてある。

15601(頭・目鼻・顔)

濟州方言	日本語
머리	頭あたま
뒷고받딤, 검은곡딤	後頭部こうとうぶ
목	首くび
턱, 턱가리, 턱고마지, 턱사리	顎あご
알턱	下顎したあご
목고망, 목	喉のど
목구레짱, 술뼈	喉仏のどぼとけ
웃하늘, 입천장	口蓋こうがい
뒷고개, 돛곡지, 뒷야개	うなじ
양지, 얼굴, 노	顔かお
삐얌, 볼	頬ほお
볼태기, 볼치, 볼망데기	ほっぺた
임덩이, 이덩이	額ひたい
숨굴	ひよめき
눈	目め

圖 2 分類語彙リスト

눈

눈 雪

- 訳: 雪ゆき
- 分類語彙表番号: 15153(雨・雪)
- 濟州語基礎語彙: 0318

-目次

눈
눈 雪
눈 目
눈 水中眼鏡

連想語彙

- 牡丹雪ほたんゆき: **한박눈**, 흰박눈
- あられ: **스레기눈**, **스라기눈**, **스락눈**
- 霧さり, 梅雨つゆ: **만**
 - 雨あめ: **비**(雨)
 - 小雨こさめ: **그눈비**
 - 霧雨さりさめ, 小糠雨こぬかあめ: **중방비**, **쫘방비**, **중범비**, **중벙**, **짐벙이**, **지슬비**
 - 夕立ゆうだち, にわか雨あめ: **박비**, **우렁비**, **쏘나기**, **췌나기**, **췌네기**, **소나기**, **쏘네기**, **짐벙이**
 - 長雨ながあめ: **고래장비**, **고래장비**, **고래비**, **고래비**
 - 春雨はるさめ: **고사리마**, **고아리마**, **고사리장마**
 - 梅雨つゆ: **장마**, **장림**

눈 目

- 訳: 目め
- 分類語彙表番号: 15601(頭・目鼻・顔), 13091(見る)
- 濟州語基礎語彙: 0316

連想語彙

- 目め(俗): **눈갈이**, **눈깨알이**
- 義眼ぎがん: **개눈**
- 目尻めじり, 目付めつき: **눈갈**
- 身み, 目め, 眼球がんきゅうや卵たまごなどを色いろによって区別くべつした部分ぶぶん: **공즈**
- 瞼まぶた, 瞳ひとみ: **눈두께**, **눈두에**, **눈곽**, **눈망둥이**
- 目めの細ほそい人ひと: **눈곰생이**, **눈곰생이**, **눈곰새**, **추쟁이**
- 瞳ひとみ: **눈동즈**, **눈공즈**, **눈공저**, **공즈**, **공저**
- 目玉めだま: **눈망울**

圖 3 項目詳細・連想語彙

この二種類のリストから項目別の詳細ページにリンクが貼られてある。詳細ページ(圖 3)は主項目が同一音形のものを一つのページにまとめ、項目別に記述言語による對應語彙

あるいは語義説明のほか、『濟州語基礎語彙』番號、『分類語彙表』番號、變異形が存在する場合はそのリスト、そして「連想語彙」リストを記載した。

「連想語彙」リストはもう一つのシソーラスで、一つの語彙を中心にして、それに分類階層に従ひ意味分野の近い(と考へられる)語彙を並べたものである。多くの項目がリンクになつてゐて、その項目の詳細ページに飛んでいくことができる。これにより、一つの語彙から意味の関連する語をさらに検索することが可能になる。連想語彙は、記述言語の譯語が同音異義によつて不明確な場合など、意味の同定にも役立つ可能性がある。

既存の辭書と異なる點は、意味分類データや多言語對譯、リンクだけではない。實質的に空見出しを廢したといふことにもある。例へば圖1の最後の項目は、詳細ページは主項目を参照するやうに送り先が示されてゐるが、同時に譯語「瞳」も示されてゐる。また、『濟州語基礎語彙』に含まれる語彙の主項目は大きな字で表示し、視覺的なめりはりもつけた。標準語の表記には全ての漢語に漢字を添へてある點も既存の資料と異なる。

近い將來(本稿の公表と前後する可能性もある)の豫定としては、記述言語を見出しにしたリストを作成し、雙方向の對譯辭書を發表する豫定がある。動植物語彙については學名データの入力がほぼ終はつてをり^{*16}、項目詳細ページの情報に加へる豫定である。

まだ課題も多い。シソーラス作りといふ主目標と時間的制約のため、通常の辭書であればなければならない品詞情報は入力が進んでをらず、現在表示してゐない。また、先行研究で示されてゐる調査地點もデータ入力の對象にしてゐない。調査地點はあくまで使用地域ではないため、提示情報に含めると誤つたメッセージを送りかねないといふこともある。意味分野としては巫俗などの民俗に關する項目がまだ少ないといふ課題もある。現在の語彙集は靜的なページ群によつてゐるが、この點もシステム上、改善が望まれる。一つの元データからユーザの指示に従つて動的に辭書データを出力する方法も探りたい。

4 をはりに

現在進行中の濟州方言の多言語對譯シソーラス作成の意義は次のやうに要約できる。濟州方言の既存の紙媒體の語彙集・辭書は二次的資料整理の餘地を残してゐる。また、ウェブページの利點を活かした、内容的に正確な辭書はまだない。「デジタル博物館濟州方言對譯語彙集」ではできるだけ正確な多言語對譯の整備を行なひながら、「辭書」と二種類の意味配列語彙リスト「分類語彙」と「連想語彙」を作成し、リンクでページ群を關係づけ、ひ

^{*16} 本來は生物學的同定をすべきところだが、既存の資料に見える標準語譯から、對應するものを確かめた。主に参考にしたのは韓國の國立生物資源館の「朝鮮半島の生物多様性」サイト <https://species.nibr.go.kr/index.do> である。

ろく讀者を得る可能性のあるウェブに公開した。紙媒體のやうに分量の制約がないため、空見出しを事實上廢した。そのため情報へのアクセスの利便性は高い。出版物と異なり適宜補修ができる柔軟性があり、すでに豫定されてゐる改良もある。今後はパプア諸語など少數言語の辭書作りにも上記のやうな辭書編輯技術を應用してゆきたい。

参考文献

- オ・チャンミョン 오창명 (2014) 「제주방언 어휘론 연구의 현황과 과제」. 『제주방언 연구의 어제와 내일』, 6章, 315-346. 제주발전연구원.
- オ・スンフン, ムン・スンドク 오승훈·문순덕 (2012) 『제주어와 영어로 ㄱ는 제주 이야기』. 제주발전연구원. (濟州語と英語で話す濟州の話).
- オ・スンフン, ムン・スン드ク 오승훈·문순덕 (2013) 『제주어 기초어휘 선정 및 활용 방안』. 제주발전연구원. (濟州語基礎語彙選定及び活用方案).
- 大野晉, 濱西正人 (1985) 『類語国語辞典』. 角川書店.
- カン・ヨンボン 강영봉 (2001a) 『제주의 언어 1(증보판)』. 제주문화. (초판 1994년 발행, 濟州の言語 1 増補版).
- カン・ヨンボン 강영봉 (2001b) 『제주의 언어 2(증보판)』. 제주문화. (초판 1997년 발행, 濟州の言語 2 増補版).
- カン・ヨンボン, 김·돈윤, 김·스즈야 강영봉·김동윤·김순자 (2010) 『문학 속의 제주방언』. 글누림. (文學の中の濟州方言).
- 김·스즈야 김순자 (2014) 『제주도방언의 어휘 연구』. 박이정출판사. (濟州島方言の語彙研究).
- 国立国語研究所 (編) (2004) 『分類語彙表増補改訂版データベース』. 国立国語研究所.
http://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/archive.html.
- 語文研究室編 (1995) 『韓國方言資料集』. 韓國精神文化研究院.
- 濟州文化藝術財團編 제주문화예술재단편 (2009) 『개정증보 제주어사전』. 제주특별자치도. (改訂増補濟州語辭典).
- ソン・サンジョ編 송상조편 (2007) 『제주말 큰사전』. 한국문화사. (濟州言葉大辭典).
- ヒョン·ピョンヒョ, 칸·ヨンボン 현평효·강영봉 (2014) 『표준어로 찾아보는 제주어사전』. 도서출판 각. (標準語で引く濟州語辭典).
- 山口翼 (2016) 『日本語シソーラス第2版 - 類語検索辞典』. 大修館書店.

(ちだしゅんたらう、京都大學大學院文學研究科)